

神奈川県立博物館所蔵の標本から見るカワラノギク

神奈川県立生命の星・地球博物館にて
2011年7月23日(土) 調査(記):中門

- 1)今年度の相模川湘南地域協議会事業として造成した”神川橋下河原の圃場”が、カワラノギクの生育環境として相応しいか調査した。
- 2)神奈川県立生命の星・地球博物館に保存する”相模川流域のカワラノギク標本”は寒川で採集されたものが最初であることが確認できた。

1. 相模川流域のカワラノギク標本の歴史

2. 寒川で収集のカワラノギク標本 ……田中学芸員から説明を受けて写真撮影

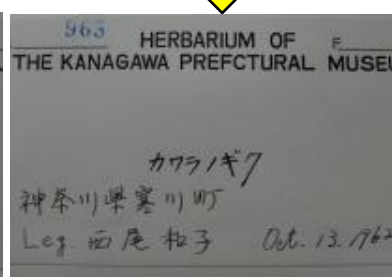
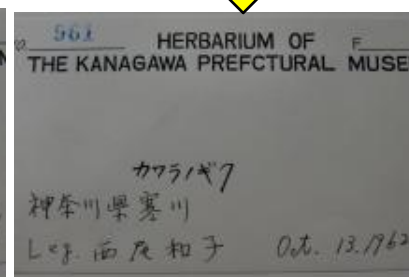
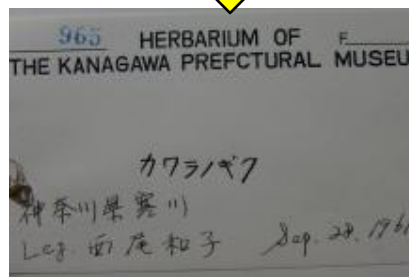
西暦	和年号	月日	採取場所	採取者	博物館
—	—	—	以前の標本なし		
1957	S32	10月25日	山北町 中川	秋山守	県立
1958	S33	—	—	—	—
1959	S34	—	—	—	—
1960	S35	—	—	—	—
1961	S36	9月28日	寒川町	西尾和子	県立
1962	S37	10月13日	寒川町	西尾和子	県立
1963	S38				
1964	S39	10月25日	中津川 平山橋	—	県立
途中は標本なし					
1979	S54	10月26日	寒川町 一之宮	合同 調査班	平塚
”	”	10月31日	座間市 上大島 昭和橋	合同 調査班	県立
以降は上流域の標本が複数見られる					



1961年9月28日

1962年10月13日

1962年10月13日



3. ~カワラノギクを過保護にしないで~

屋根のない博物館代表 保坂健次氏 HPより

- ①除草は年3回、外来植物が結実する前に手作業で抜き取る。
- ②矢原四原則の遵守のために、種は堤防近くで保険の意味を込めて循環用圃場を作り種を確保しておく。(5坪程度)
- ③圃場はあくまでも緊急用として、植物が自然界で回復したとき閉鎖する。
- ④流域に住む市民がお互いに協力し合いながら参画できるような保護活動を行う。
- ⑤カワラノギクの広域的な保護区域を設ける。
- ⑥河川の共同利用の立場から市民に理解を求める。

氾濫による土壌の変化利用で連作障害を回避する植物か。